

処分場計画地の地下水等に係るこれまでの知見

資料5

	年月日	氏名	内容	主な意見（要約）
1	H27. 1. 21	岡山大学大学院 環境生命科学研究所 教授 西垣 誠	H26年度地下水流向等調査報告書（福井水源地影響調査）に対する意見について	<ul style="list-style-type: none"> ○調査手法・結果は妥当。 ○「福井水源地に影響する可能性は否定できる」との結論は妥当。 ○事業計画地の下流に位置する小波上の泉は、水質調査の結果から事業計画地とは涵養源が異なるものと示唆されているが、利用者の安心を確保するため、継続したモニタリング調査実施が望ましい。
2	H28. 8. 26	鳥取大学国際乾燥地研究教育機構 特任教授 北村義信	「淀江産廃最終処分場の調査報告書に対する公開質問状」に関する技術的所見	<ul style="list-style-type: none"> ○地下水が山側に向かって流れているのは観測ミスではないか。ミスでないにしても特異な局所現象であり、代表的土質・地質物性として用いることに疑問を感じる。この地点で流向流速計を適用したことに疑問を感じるとともに、観測結果の分析にも妥当性、信頼性に疑問符がつく。 ○解析・考察は、根拠のない間違った透水係数に依拠しており、信頼性に欠けると言わざるを得ない。 ○三次元浸透流解析の同定計算では、2点のみの実測値に基づく同定は不十分。
3	H29. 2. 28	鳥取大学 名誉教授 吉谷昭彦	「（仮称）淀江産業廃棄物最終処分場の設置に係る生活環境影響調査書」に対する意見書	<ul style="list-style-type: none"> ○地質系統の構造を示す地層の分布地点で、地層の走向・傾斜が明らかにされておらず、処理場設置予定区域の地質構造の概要すらうかがうことが出来ないが、地下水が旧淀江町の盆地へ流れ込む可能性を否定できない。 ○火山灰層の透水係数$1.5E^{-5}$cm/sは、粘土化が顕著な火山灰層でありながら、かなりの地下水量が流動することになる。砂礫層の透水係数$2.5E^{-4}$cm/sは少ないように思われる。 ○透水係数、流向、流速など、地下水に関わる値を近似式を重ねて用いているために40～50%の誤差が生じていると考えられるが、求めたデータの検証が行われておらず、正確性に難点を残す。 ○「事業計画地で（中略）地下水が『台地と谷の複合する地形』の影響で北北西へシフトする」とあるが、それを示唆・支持する地質構造が見当たらない。 ○報告書は、極めて不十分な地質調査で、大部分は近似式に近似式を重ねる数値計算、モデル解析を行い、実際の状況とは異なる結果をもたらしており、処分場の浸出水あるいは地下水が淀江盆地へ流入する可能性を否定できない。
4	H30. 6. 10	技術士 伊藤徹	H26年度地下水流向等調査報告書に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ○地下水の流動方向を推定している手法は、水理的、水文地質学的にも妥当。 ○地形・地質上から見ても、福井水源地側は扇状地形の発達が発弱であり、地下水の主たる供給水は事業地側の扇状の丘陵地とは異なることが想定される。 ○水質パターンから、主たる地下水の供給源は西尾原から壺瓶山に至る丘陵地を境として、東側と西側では異なるものと想定される。 ○地下水の主たる流路方向が北西方向であること、福井水源地の水質パターンが高井谷、西小原からの地下水に類似していることからしても、妥当な調査結果が得られていると評価できる。